

AERA
BUSINESS

あなたは給料に
満足ですか

滝川クリステルが見た上海

アエラ臨時増刊 No.14 3月25日号 定価680円



世界経済の 超常識

38業界
縦断超立体
マップ

給料上がる国 下がる国

現地経済ルポ
NY・上海・ブラジル・
アルゼンチン

米ゴールドマン・サックス ボーナス5億円から
インドネシア コメ現物支給まで 12カ国調査

円ドル統合で
日本経済復活 くっちゃんさん

シャープが挑む
ニッポン製造業の未来

アメトーク! で学ぶプレゼン術
Twitter フリーで始まる新経済なう!
マイケル・ジャクソン 経営管理術

滝クリW対談

辻野晃一郎 グーグル日本法人社長
出井伸之 元ソニー社長

土地ころがしマンション3.3倍
不動産バブル崩壊は2014年
中国進出のカギはあっさり豚骨

滝川クリステル 上海現地取材



総中流の 背伸び消費と サンバパワー

その街はカーニバルで沸騰していた。会う人にパワーがみなぎっていた。「サッカーの国」が、いま、世界経済の一角に育とうとしている。過半数が「中流」となった国。かつての日本を思い起こさせる。ここに日本復活のヒントはないのか。街を歩いた。そこかしこで、人々の笑い声が聞こえた。

フランク・文彦 著 藤子（サンバウム）

2010年1月6日、カーニバルの主会場、サンバドームでペンキを塗る人々

ブラジル消費弗鳶

ニッポンの
処方箋

②



PHOTO BY AP/WIDEWORLD

2010年2月4日、サンパウロの東、ジャルジン・ロマーノでは、豪雨で通りが冠水した。排水設備に問題があったという

サンバカーニバルのきらびやかな衣装が、壁一面に並ぶ液晶テレビに映し出されている。その画面に、家族連れやカップルが見入っていた。

つられて見ていると、近づいてきた店員が言った。

「6月開幕のサッカーW杯に向けて32インチや40インチのテレビが売れます」

入り口付近には、目玉商品の液晶テレビやパソコン、大型の冷蔵庫が置かれていた。店に入ると、体育館のような奥行きがある広い敷地なのに、通路は人ひとり通るのがやっと。通路を行くと、両側には掃除機やミシンが並べられていた。さらに進むと、フライパン、ジュース、子ども用の乗り物や、健康器具のランニングマシン、自転車もあった。

さらに奥に進むと、ダイニングセットやソファ、ベッドなどの家具が見えてきた。まさにカオス。

「いったい、ここ、何の店だ？」

激安値札のわけ

ブラジルの11都市に500以上の店舗を展開する「カサス・パイア」といえば、ブラジルに住む人なら誰もが知っている家電や家具の大型量販店だ。

大型冷蔵庫に張られた値札を見て驚いた。「79・90レアル」と赤い文字で書かれていたからだ。日本円にして約4千円。「安い！」と思って、よく目を凝らすと、小さく横に「×10」とある。

BRICSの一角であるブラジルは経済成長が著しい。

もちろん、2008年9月のリーマン・ショックの影響は受けた。サンパウロのへそ、金融機関が軒を並べるパウリスタ通りで、金融機関に勤める男性(28)は言った。

「リーマン・ショックで投資家心理は冷え込んだ。徐々に戻りつつあるけどね」

だが、一般の人たちの消費熱を冷ますような影響はみられない。ブラジル政府がすぐに自動車や家具のメーカーに対して減税措置をとり、商品価格を一時的に下げたのが奏功したとも指摘されている。

さらに、人々の消費熱をおおりに立てたのが、「分割払い」だ。その熱の高まりは、前述の量販店カサス・パイアの軌跡と一致する。

カサス・パイアは、ポーランド系移民の行商人サミュエル・クレイン氏が1957年にサンパウロ市郊外で創業した。

警察さえ、危険をおそれて足を踏み入れない「ファベラ」と呼ばれる貧民街などに店舗を構え、手持ち資金が少ない貧困層をターゲットに、分割払いで家電や家具を販売した。ブラジルの貧困層は地域コミュニティの監視が行き届いていて、未払い率が低い。カサス・パイアは、ここに目をつけた。

原動力は「背伸び消費」

クレジットカード会社と提携するのではなく、カサス・パイア本体が、個人向けローンの金融業務を請け負う。顧客の支払い能力をチェックしながら、その人にあったクレジットをくむ。分割払いの手数料などが、そのまま自社の利益になる仕組みになっている。

ブラジルで成功した経営者といえば、旅行最大手CVCの創業者、ギリェルメ・パウリス氏も有名だ。CVCもやはりターゲットは貧困層だった。

72年にサンパウロ市郊外で「旅行に出かけたことのない工場労働者たち」を対象にビジネスを始めた。支払いは、やはり分割払い。現在は旅行会社で中南米1位、世界で10位の売り上げに達した。サンパウロ市内にもショッピングモールなどに店



2009年12月。16年の夏季オリンピック開催に向け、政府は街を巡回する警官を増やしている

舗網を持つ。

いま、ブラジルの消費を支えているのは、いわゆる貧困層や新興の中産階級といわれる人たちだ。いまは手持ち資金がなくても、将来も国の経済が成長しそうだから、分割払いで手に入れたい。

ブラジル消費沸騰の原動力は、「背伸び消費」といえるかもしれない。

今回、街のスーパードに出かけ

て、どの店でも売り切れている商品があった。

トイレットペーパーだ。パーソナウという会社だが、低価格で、2枚重ね巻き(ダブルロール)のトイレットペーパーを売り出したところ、たちまち人気商品に。製造が追いつかないほどになった。現地の人はこう言う。

「生活が豊かになるにつれて、日用品にも「高品質」や「ステータス」を求めるようになったから」

90年代後半から、サンパウロでは車の渋滞が深刻化していた。現地の人は、

「平日の昼間は、歩いて15分程度着くところに車で2時間かかることがある」

と笑ってみせた。休暇シーズンは近郊の海岸へ行く車の渋滞の長さが、200キロにまで伸びる。

ヘリタクと豊胸手術

サンパウロ市は、月曜日はナンバーの末尾が1・2番、火曜日は3・4番……と、曜日ごとに通行できる車のナンバー規制をして渋滞緩和を図ろうとした。だが、ブラジルの人は、末尾規制の影響を受けないように、余計に車を買うという手段に出た。当然、この自動車消費も分割払いを駆使した「背伸び消費」だ。

さらに最近では、「空の渋滞」が起きている。もともとブラジルの超富裕層は、自家用ヘリコプターで通勤していた。ところが、ヘリタクシー会社「ヘリマーチ」によると、政治家や企業幹部の移動手段のほか、休暇で海岸へ行く家族連れや観光客の利用が最近増えているという。

「たいいていのホテルにヘリポートがついているから、地元の若いカップルがデートに使うこともある」

と、パイロットのアンドレ・メネゼスさん(33)は話す。

1時間1400レアル(約7万円)のプライベートカードを買

う方式で、1回ごとにフライト時間を差し引いていく仕組みだ。利用者が超富裕層だけではなくなったせいか、ヘリタク会社は急増中で、いまサンパウロだけでも約30社が営業している。

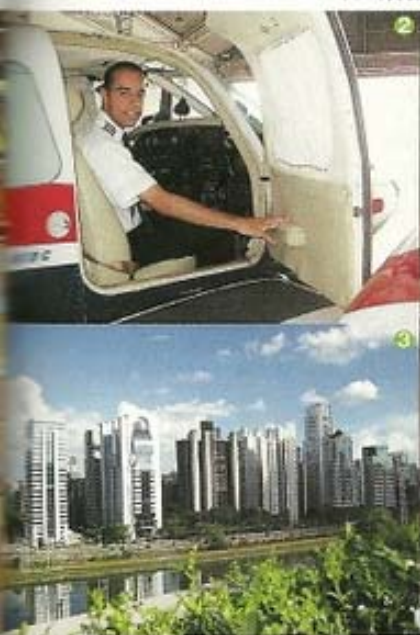
最近では、カーニバル休暇や平日の通勤時は、地上だけでなく、空の渋滞も深刻になってきているという。

おしゃれなパオリッサ(サンパウロ娘)も「背伸び」している。彼女たちの間で人気なのは、美容整形だ。

「ほら、見てみて」

携帯電話ショップの女性店員(26)は胸元を自慢してきた。半

- ①ブラジルは渋滞がひどい
- ②ヘリタクブームで空の渋滞も始まっている
- ③建設ラッシュが続く
- ④スイーツ売り場も多彩になった
- ⑤より華やかなファッションを消費者は求めている
- ⑥カザス・パイアの店頭。ブラジル小売り最大手のボンジアスカルが昨年12月、カザス・パイアの買収を発表した
- ⑦ブラジルでも日本食ブーム





2009年11月。リオの娯楽が働く街で、政府がスポンサーとなってファッションショーが開かれた。編織たちにデザインや裁縫などを教えて新たな職につけるよう指導している

PHOTO: gettyimages

年前、豊胸手術をした。友だち3人も同じ手術をしていて、気楽にのぞんだ。「ドレスを格好よく着こなしたいから」

手術後の「できあがり」の胸の大きさには大満足している。約4千リアル(約20万円)の手術代は当然、分割払いだ。

形成外科医のアリソン・ドイさん(30)によると、ここ数年で美容整形の手術代は下がって

る。豊胸手術だけでなく、鼻や耳のかたちをかえる、顔のしわをのばす、わき腹の脂肪を吸引する、といった美容整形手術が増えた。

「娘の誕生日に美容整形をプレゼントする親も多いですよ」

ブラジルの08年度のGDP成長率は約5%で、前年の5%台を維持した。それに伴って、消費拡大を支える「新しい中産階級」も急拡大している。

公営住宅は夢みたいの話

ブラジル政府は、主要6都市で、社会階層を所得の多い順に、A〜Eの5段階に分けている。中産階級であるCクラス(月ごとの世帯収入1115〜4807

リアル)は07年度に50%を超え、09年度は53.2%だった。その影響で、州政府はここ数年で、貧民街の住民が移り住めるように、公営住宅を建設している。ただ、新しい家を求める人の数に建設が追いつかず、公営住宅の抽選に当たるのは、現地で「夢みたいの話」といわれている。

そんな「夢」をつかんだのが、エレーナ・ダ・シルヴァさん(41)だ。貧困層が比較的多いサンパウロ東部のモオッカ地区の

公営住宅に住んでいる。

5年前、抽選に当たった。42平方メートル、2LDKの家は掃除が行き届いていた。ベッド、冷蔵庫、たんすを買いそろえ、今では各部屋に中型テレビが1台ずつ、合計3台ある。いずれも分割払いだ。

「ここは天国よ」

以前住んでいた家では、50人の家族と台所、洗濯場、トイレやシャワーを共有していた。ベッドと硬いマットレスがやっと置ける大きさの部屋で、夫と息子と交代でベッドを使った。

エレーナさんの夫はトラックの運転手で、月800リアル(約4万円)を稼ぐ。エレーナさんは、カーテンを縫ったり、ズボ



ンのすそ上げをしたり、服をつくってフリーマーケットで売ったりして、月に400〜500リアル(約2万〜2万5千円)の収入がある。

高校を卒業した息子は、分割払いでパソコンを購入し、大学進学の手配をしている。エレーナさんの買い物を手伝いたいと最近、車の免許を取得した。これから車も買う。

「自分は貧しくて小学校も出ていない。学校に行きたいし、連れ添って16年たった今の夫と結婚式もしたい。夢は自分のお店と工場を持つこと」

そう語るエレーナさんの顔は、希望に満ちているようで、本当にまぶしかった。